



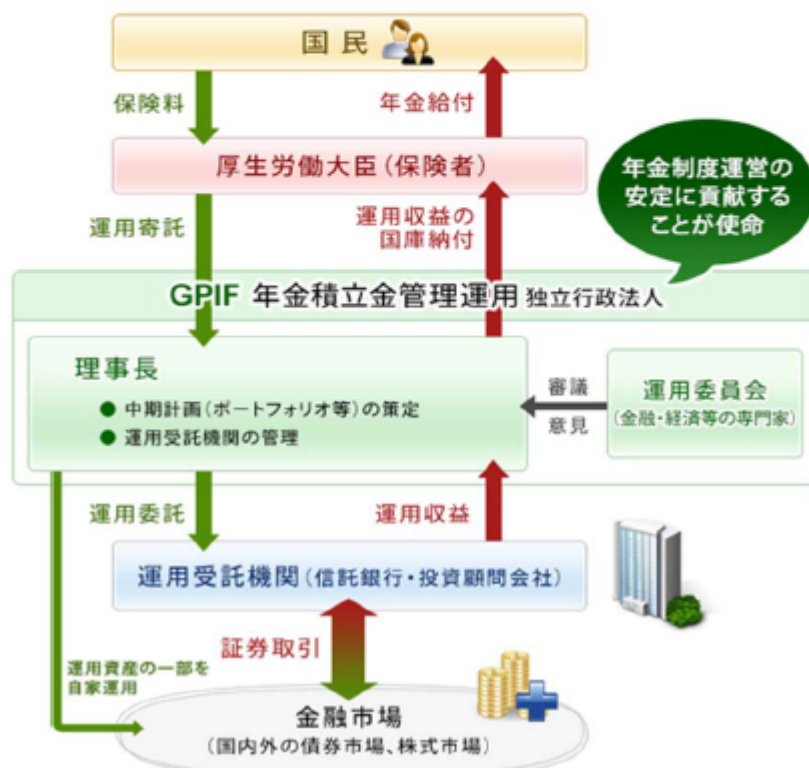
議案第4号 今後の年金資産運用について

- ◆ オルタナティブを順次解消して行く。
 - ・ 現在残っているオルタナティブは、比較流動性が高い。
- ◆ 投資顧問を解約し、信託銀行に集約する。
 - ・ 手数料の高い投資顧問会社を解約し、りそな銀行へ集約する。
 - ・ 一度に解約するのではなく、タイムリスクを抑えるため平成27年3月末までに順次解約する。
 - (平成26年12月末まで)
 - ①ブラックロック・ジャパン株式会社
 - ②大和住銀投信投資顧問株式会社
 - (平成27年3月末まで)
 - ③東京海上アセットマネジメント株式会社
 - ④ニッセイアセットマネジメント株式会社
- ◆ 平成27年4月以降、GP I F (国) の資産構成割合に変更し、アクティブ運用からパッシブ運用に切り替え、リスクを抑える。
 - ・ 中立化によりGP I Fを下回らなければ、不足を生じない。
 - ・ 4信託銀行は、3月までは現行の運用を続け、4月以降は、りそな銀行に集約はせず、各信託銀行においてGP I Fの資産構成にあわせる。
 - GP I Fの今後の資産構成で行う。

年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の体制

- GPIFの運用委員会において、財政検証を踏まえての基本ポートフォリオの見直し作業が進められています
- 来年4月からという区切りではなく、運用環境が大きく変わっている状況を踏まえ、時宜に合わせてポートフォリオを見直すというものです。
- 現時点で公表時期等は流動的ながら、9～10月頃に公表との観測がなされています

年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の組織



運用委員会メンバー (平成26年7月18日現在)

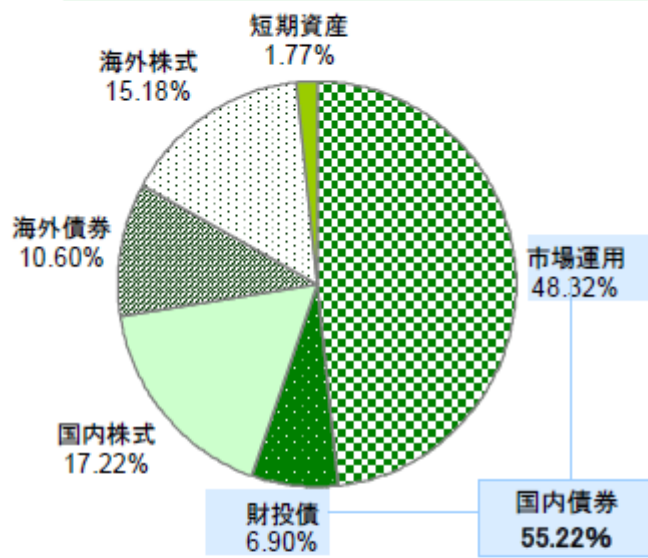
委員長 米澤康博早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授
 委員長代理 堀江貞之株式会社野村総合研究所上席研究員

委員
 大野弘道 味の素株式会社取締役常務執行役員
 佐藤節也 東洋大学文学部英語コミュニケーション学科教授
 清水順子 学習院大学経済学部教授
 菅家功 公益財団法人連合総合生活開発研究所専務理事
 武田洋子 株式会社三菱総合研究所政策・経済研究センター主席研究員
 水野弘道 コラーキャピタルパートナー

GPIF運用見直し作業

- 現状の基本ポートフォリオ(中心値)よりも内外株式比率は引き上げられる方向です
- 但し、GPIFの中心値の変更がどの程度の内外株式への資金シフトの投資行動につながるかは流動的です

資産構成割合 (2013年末、128兆円)

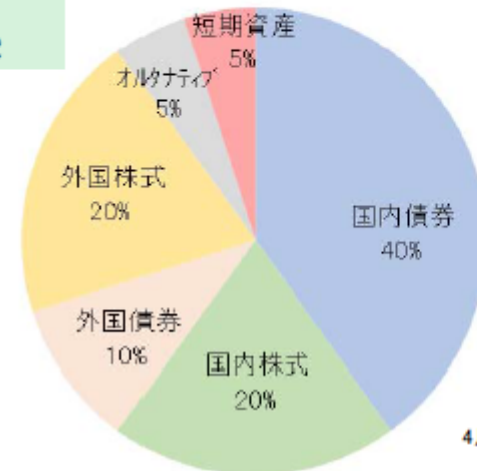


【出所】 GPIFより、リソな銀行作成

【GPIFの基本構成比】

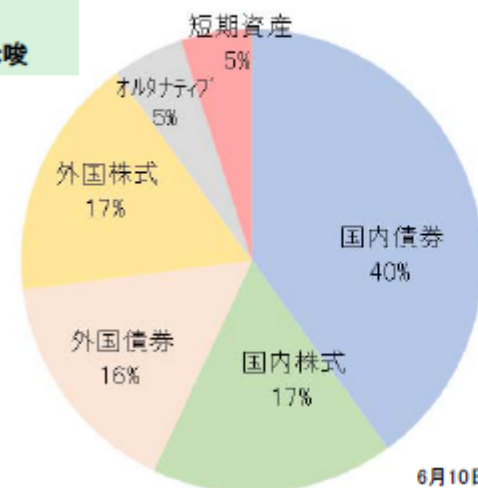
	GPIF 基本ポートフォリオ	許容 乖離幅
国内債券	60.0%	±8%
国内株式	12.0%	±6%
外国債券	11.0%	±5%
外国株式	12.0%	±5%
短期資産	5.0%	-
合計	100.0%	-

有識者会議
伊藤座長示唆



4月24日民放番組より

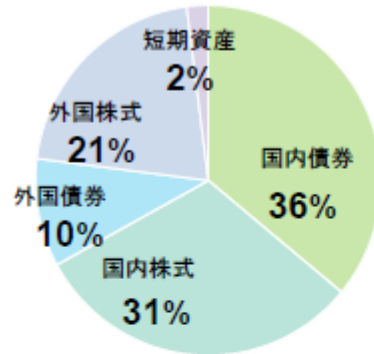
GPIF米澤
運用委員長示唆



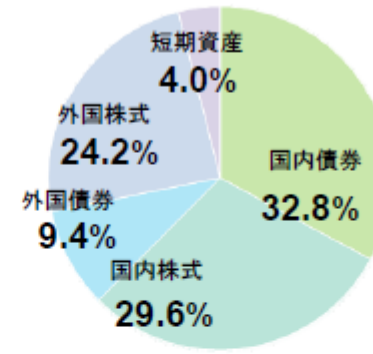
6月10日WSJより 52

基金運用とGPIF運用の対比

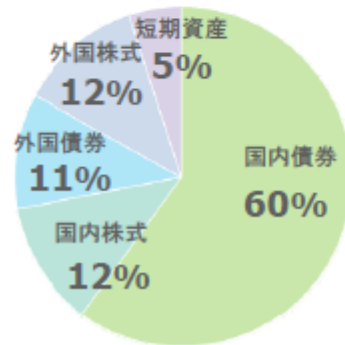
基金基本アセットミックス



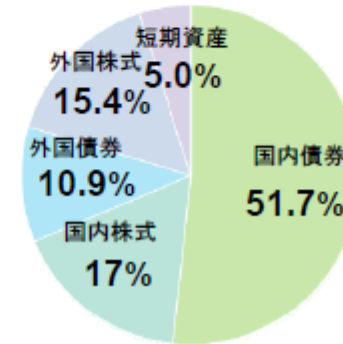
7月末現在の時価構成比



GPIFの現基本ポートフォリオ



7月末現在のGPIF時価構成比(りそな推計値)



GPIF基本ポートフォリオ見直しにより、国内債券引き下げ内外株式、外国債券が引き上げられる見込みです